

令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

1 調査対象（学校数、児童生徒数は特別支援学校を含んだ数）

	対象学校数	児童生徒数
小学校(第5学年)	309校	15,702人
中学校(第2学年)	171校	15,615人

※調査実施期間：令和3年4月から7月末までの期間

※特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒については、その障害の状況等を考慮して、参加の是非を判断。

2 実技に関する調査

【体力合計点】（80点満点）

〈小学校〉

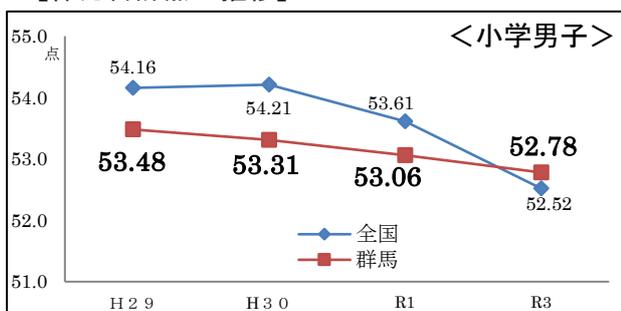
		令和3年度	全国比較
男子	本県	52.78	+0.26
	全国	52.52	
女子	本県	55.59	+0.95
	全国	54.64	

【体力合計点】（80点満点）

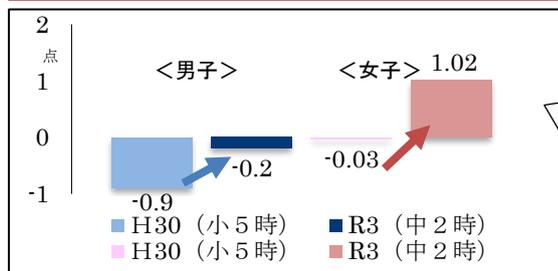
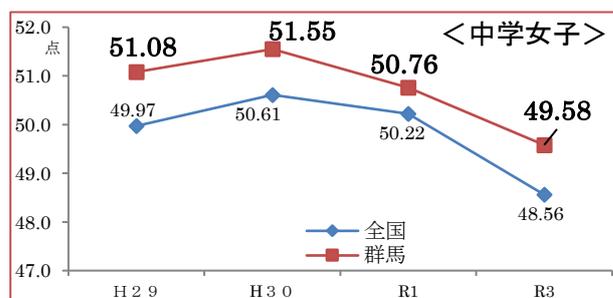
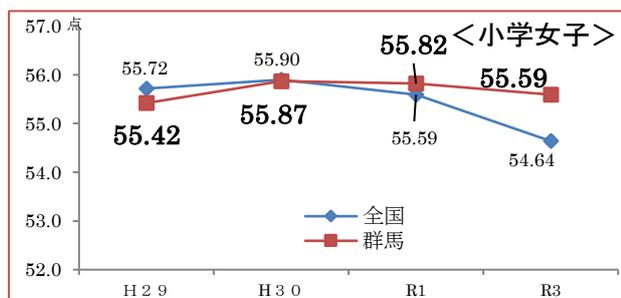
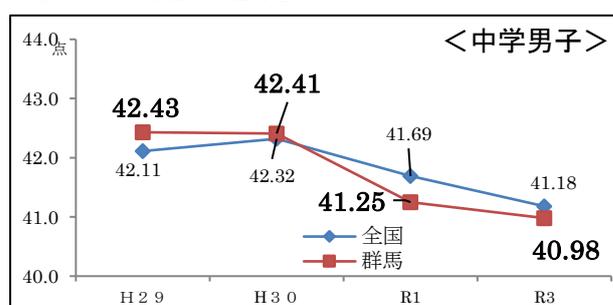
〈中学校〉

		令和3年度	全国比較
男子	本県	40.98	-0.20
	全国	41.18	
女子	本県	49.58	+1.02
	全国	48.56	

【体力合計点の推移】



【体力合計点の推移】



同一集団（小→中）で見た体力合計点の全国平均との差

現中学校2年生について、小学校5年生時の調査結果と比べると、男子は、全国平均よりわずかに低かったが、全国平均とほとんど差が見られなくなった。女子は、全国平均とほとんど差がなかったが、全国平均より高くなるなど、男女とも全国平均との差は改善した。

〈体力合計点について〉

全国平均及び本県ともに、令和元年度に比べ、小中男女いずれも低下した。

なお、全国平均に比べ、本県の低下度合いはいずれも小幅であった。

【男子】小学校は、平成20年以降で初めて全国平均を上回った。

中学校では全国平均とほとんど差がなく、前回に比べてわずかに低くなった。

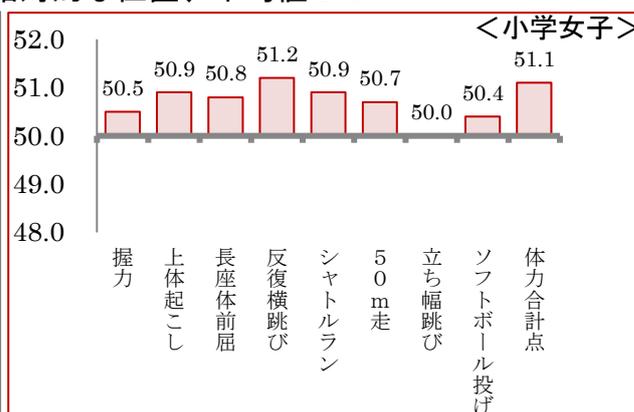
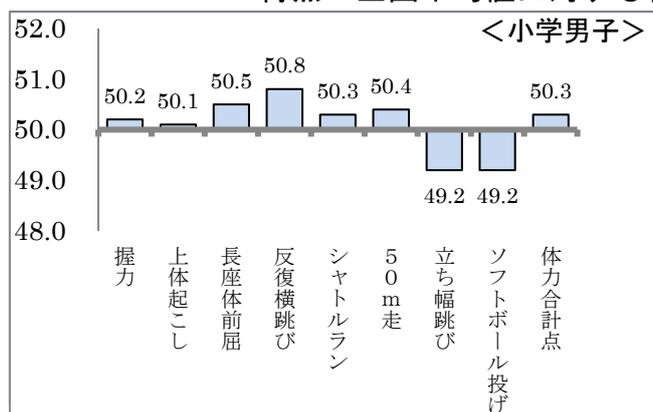
【女子】小学校、中学校ともに全国平均より高い傾向が続いている。

【各項目の結果】

〈小学校〉

		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (回)	シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)
男子	本県	16.30	18.98	33.93	41.00	47.51	9.41	149.64	19.94
	全国	16.22	18.90	33.48	40.35	46.83	9.45	151.41	20.58
女子	本県	16.28	18.53	38.57	39.66	39.62	9.58	145.26	13.49
	全国	16.09	18.08	37.90	38.72	38.15	9.64	145.18	13.30

↑ 得点：全国平均値に対する相対的な位置、平均値 50

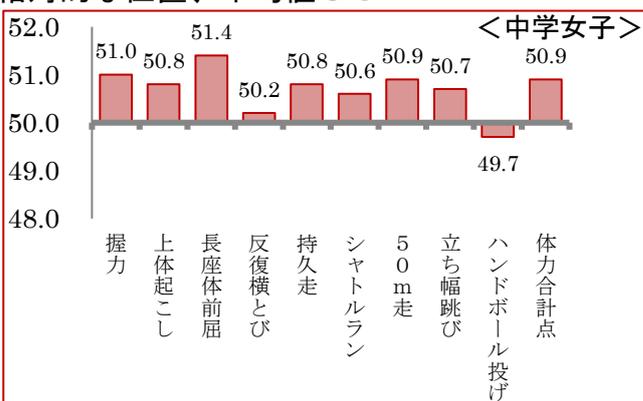
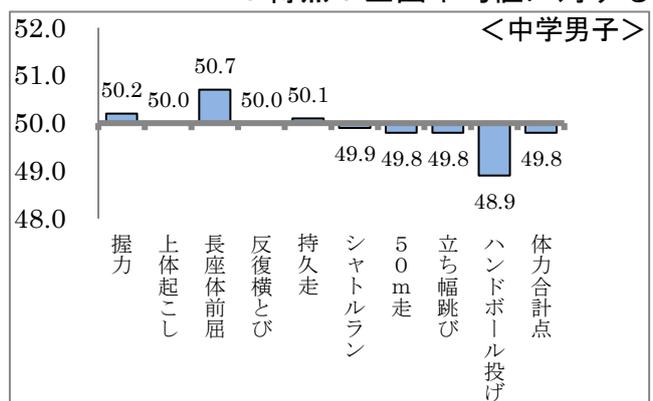


〈中学校〉

※持久走とシャトルランは、どちらか選択。

		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (回)	持久走 (秒)	シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)
男子	本県	28.94	26.01	44.48	51.18	405.71	79.54	8.03	195.72	19.63
	全国	28.80	25.99	43.67	51.19	406.38	79.88	8.01	196.36	20.31
女子	本県	23.88	22.79	47.62	46.37	293.75	55.47	8.80	169.83	12.59
	全国	23.43	22.32	46.20	46.25	297.62	54.24	8.88	168.15	12.72

↑ 得点：全国平均値に対する相対的な位置、平均値 50



〈各項目における傾向について〉

○小学校において、男子は立ち幅跳び、ソフトボール投げ以外の項目で全国平均を上回っており、女子は全ての項目で全国平均を上回っている。

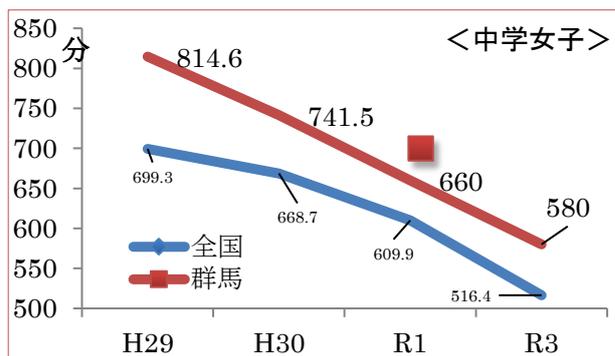
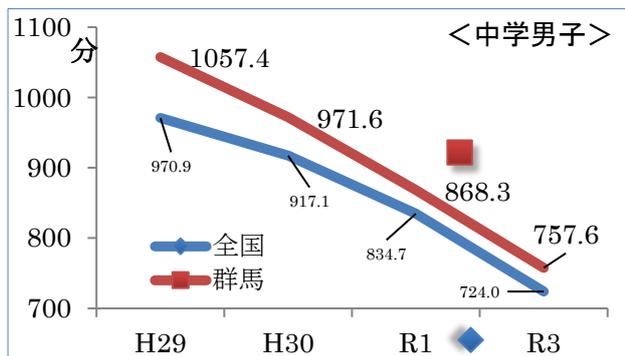
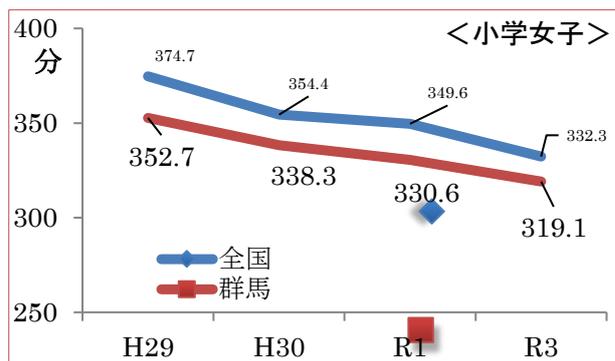
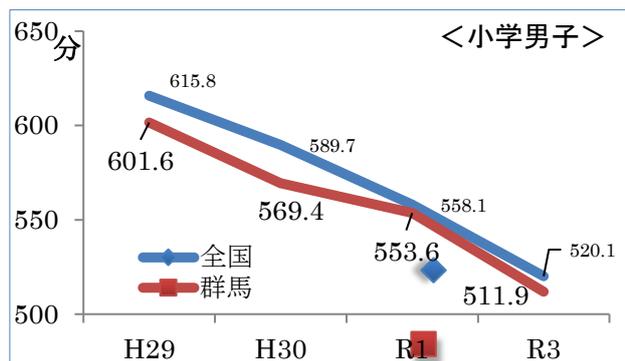
○中学校において、男子は反復横跳び、シャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ボール投げ以外の項目で全国平均を上回っており、女子はハンドボール投げ以外の項目で全国平均を上回っている。

3 児童生徒質問紙調査

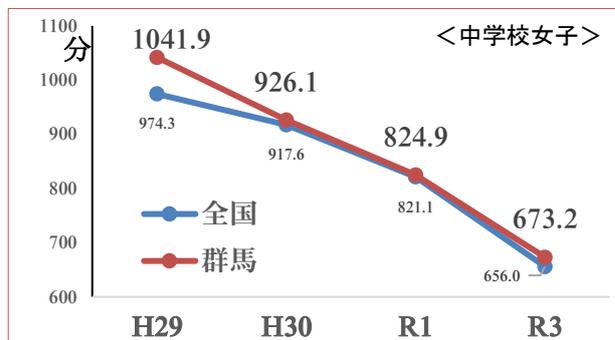
〈全国と比較したときの本県の特徴〉

体育の授業時間以外での運動やスポーツについて

・ 1週間の総運動時間平均（分）



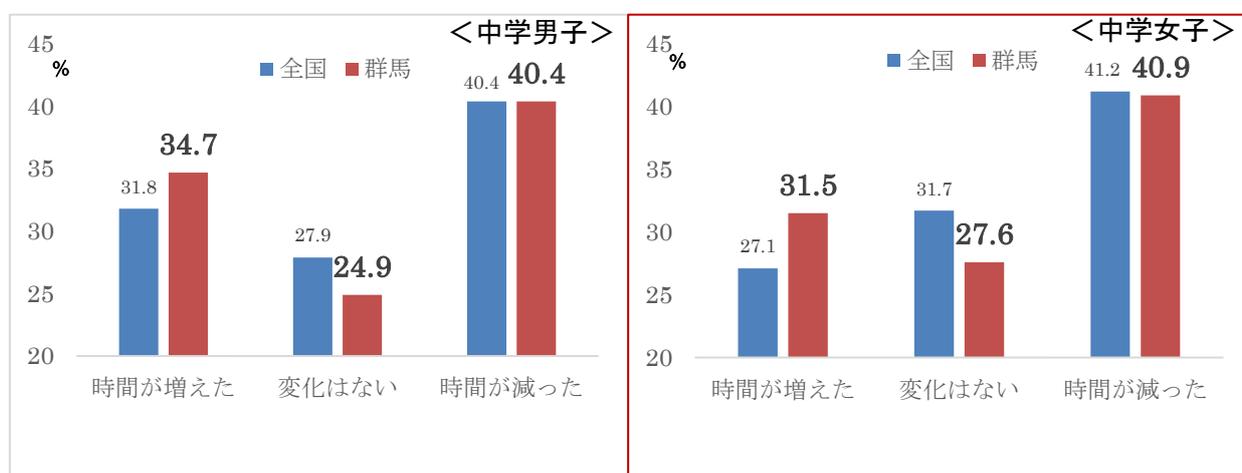
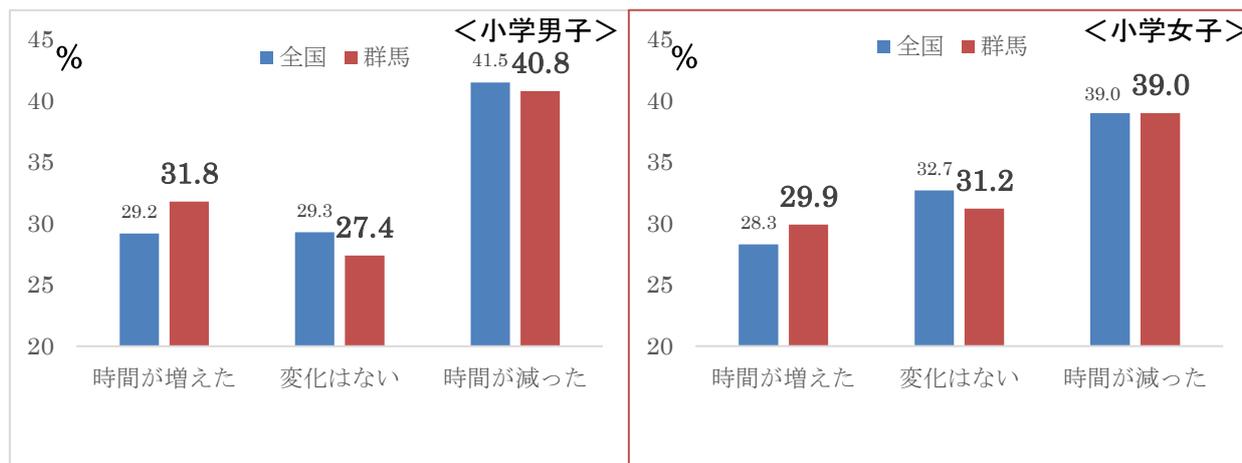
1週間の運動部活動実施時間（分）について（中学校）



○平成29年度以降、1週間の総運動時間平均（分）の減少が続いており、体力合計点の低下の要因の一つと考えられる。

○運動時間の減少の原因として、新型コロナウイルス感染症拡大による影響や行事の精選による体育的行事等の縮小に伴う運動機会の減少、熱中症対策や防犯対策としての外遊びの減少が考えられる。特に中学校においては、各学校における部活動の適正化に向けた取組等により、活動時間が適切に設定されていることが考えられる。

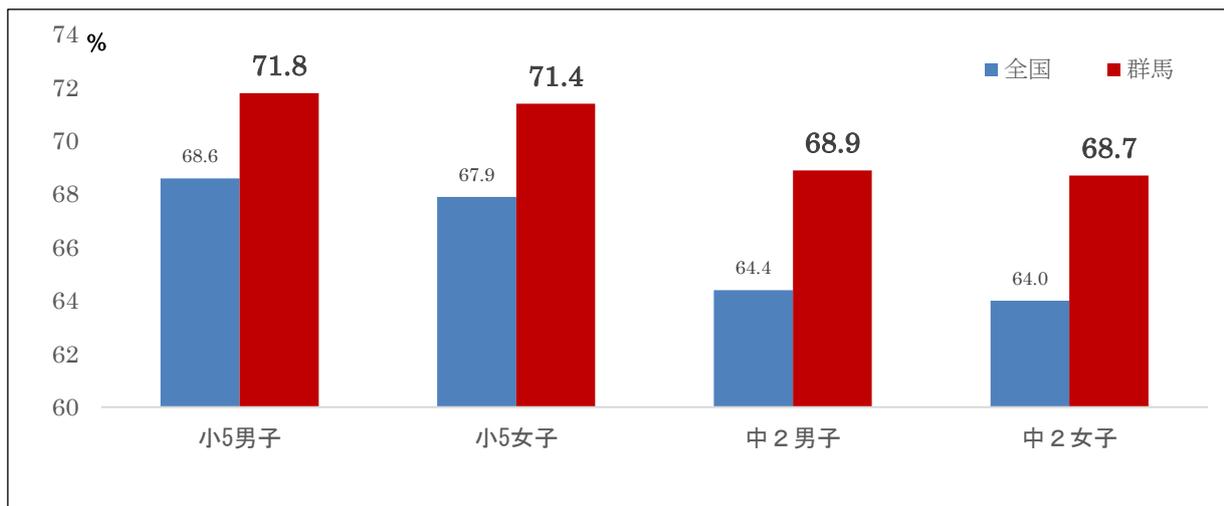
新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在とを比較して、児童生徒の運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツへの取組はどのように変化したか。



○全国同様、本県においても新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、小中学校とも約4割の児童生徒が、運動やスポーツに取り組む時間が減ったと感じている。

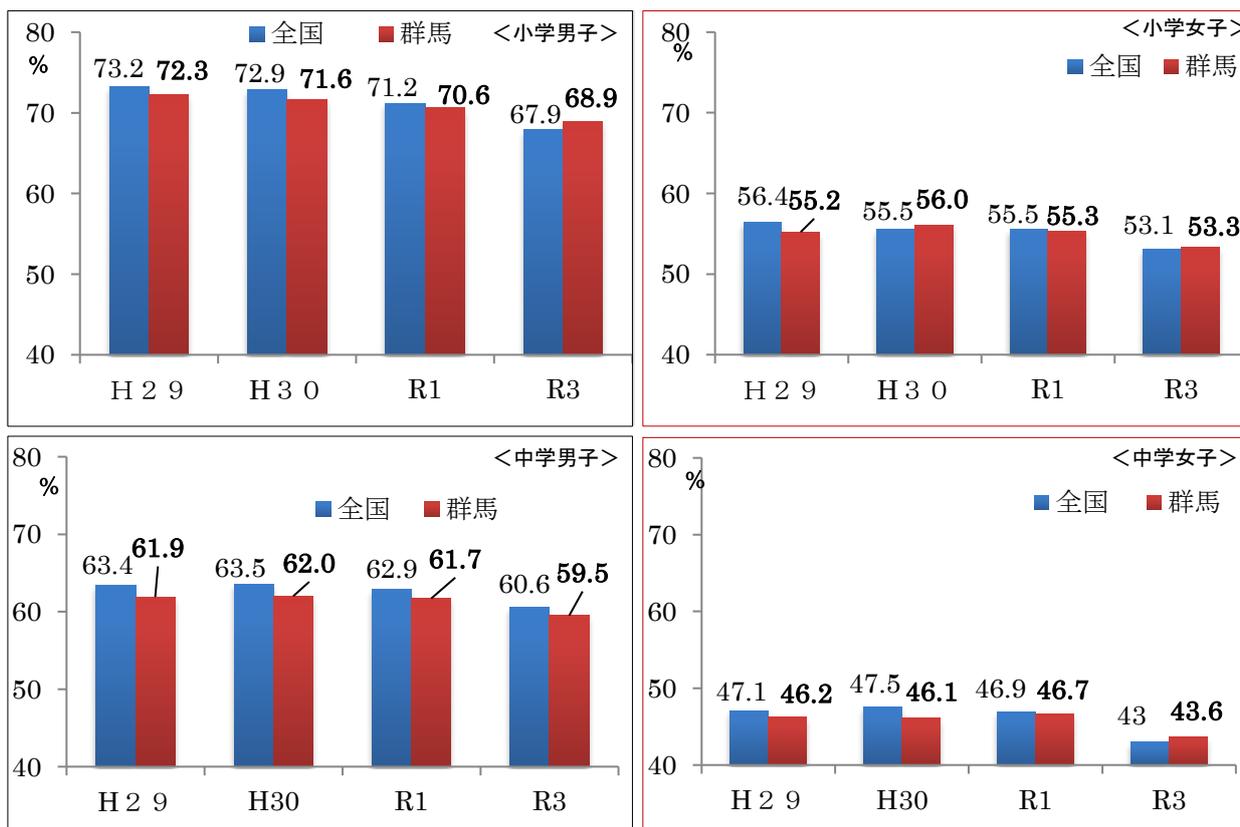
○逆に、小中学校とも約3割の児童生徒が、運動やスポーツに取り組む時間が増えたとも感じている。全国平均と比較すると、小中学校とも全国平均を上回っている。

体力テストの結果や体力の向上について、自分なりの目標を立てている児童生徒について



○体力テストの結果や体力の向上について、自分なりの目標を立てている児童生徒の割合は、全国平均と比べて小中学校の男女いずれも高かった。

運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが「好き」と感じている児童生徒について



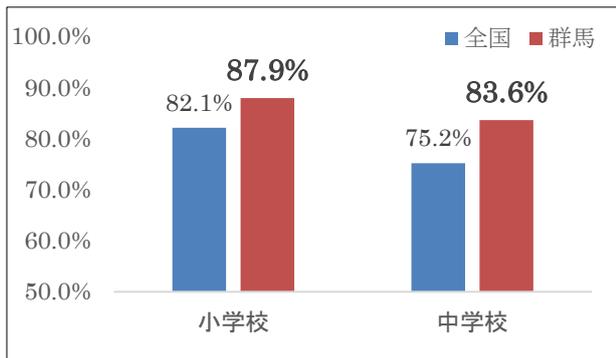
○「運動やスポーツをすることが好き」と感じている児童生徒の割合は、全国、本県ともに前回より低下している。また、小中学校の男女いずれも、全国平均とほとんど差がなかった。

4 学校質問紙調査

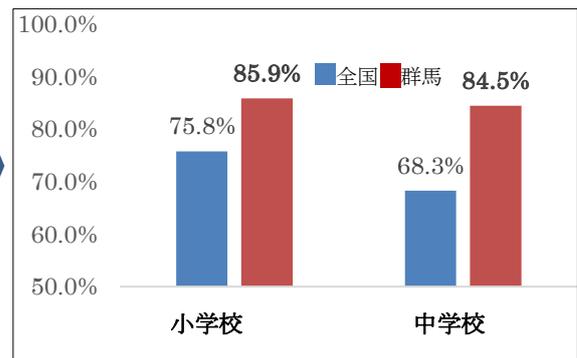
〈全国と比較したときの本県の特徴〉

学校全体として体力・運動能力向上の目標設定をした。

〈前回（R1）〉

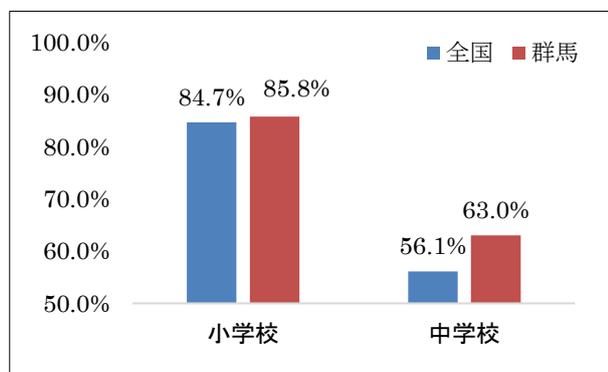


〈今回（R3）〉

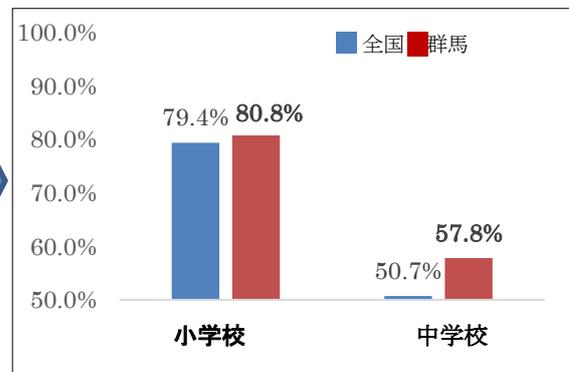


全児童・生徒に対する体育・保健体育授業以外での体力・運動能力の向上に係る取組を行った。

〈前回（R1）〉



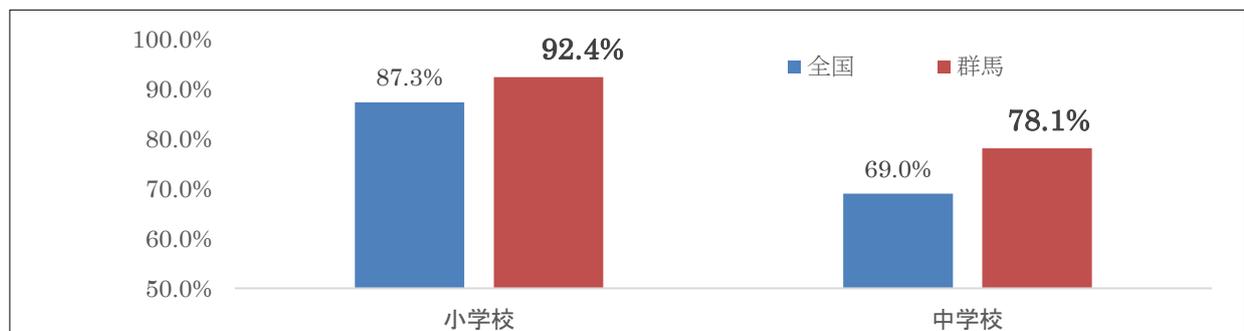
〈今回（R3）〉



○学校全体での体力・運動能力向上のための目標設定や、運動・スポーツが苦手な児童生徒向けの取組等は、コロナ禍により前回に比べて低下している。ただし、各学校が作成する「体力向上プラン」に基づく取組等により、小中学校ともに全国平均を上回っている。

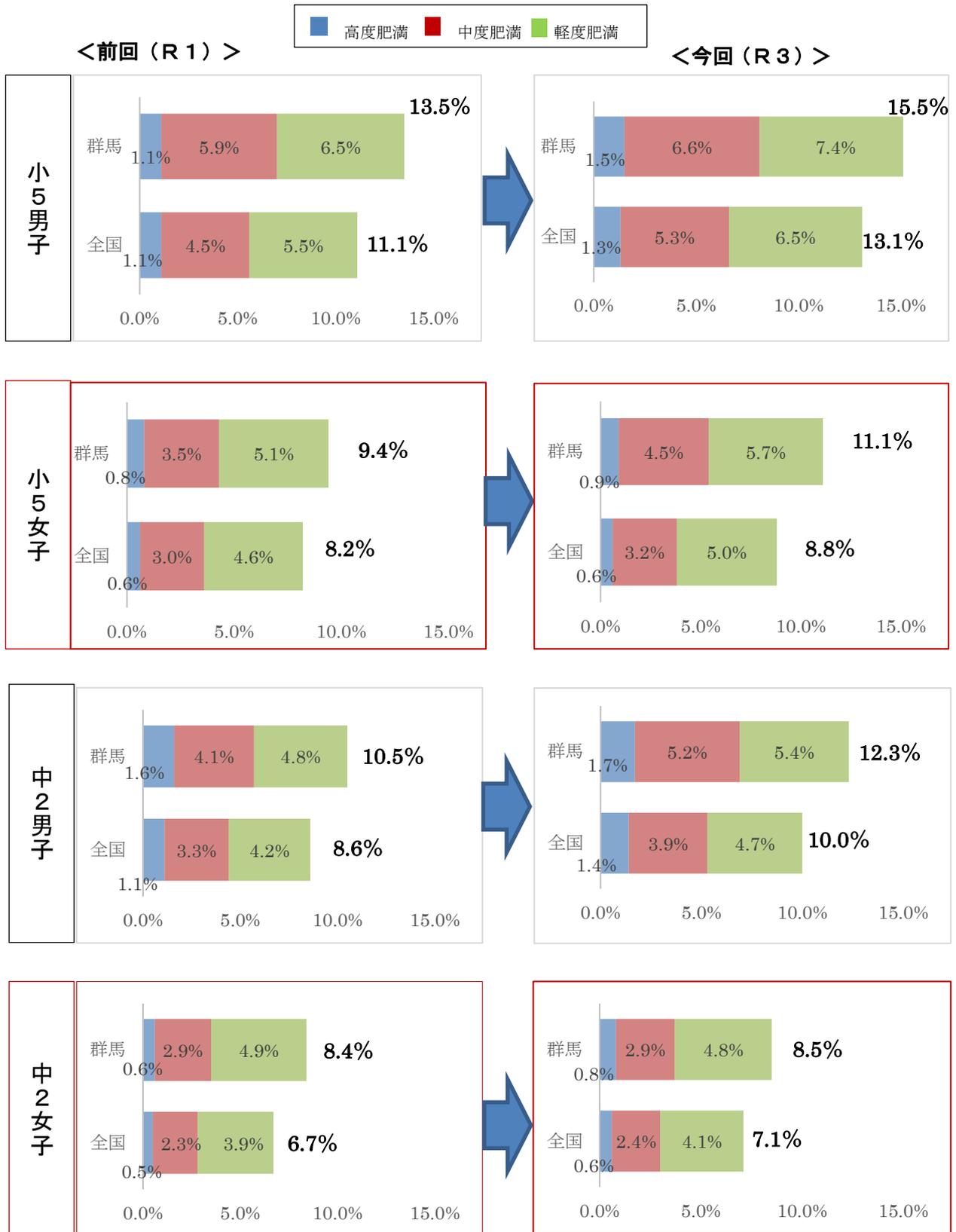
〈家庭との連携〉

運動やスポーツ、児童生徒の体力について、学校は、家庭と連携をしているか。



○運動やスポーツ、児童生徒の体力について、家庭と連携をとっている学校の割合は、全国平均と比べ、小中学校ともに上回っている。

5 体格に関する調査 <肥満傾向の児童生徒の出現率について>



○肥満傾向（高度肥満＋中度肥満＋軽度肥満）の児童生徒の出現率は、全国平均と比べて小中学校いずれも高く、前回と比べて上昇している。

6 成果と課題

<成果>

- ◎小中学校の男女いずれも、体力合計点については、全国平均との比較結果が改善されている。
なお、小学生男子は、平成20年以降、初めて全国平均を上回った。
- ◎コロナ禍においても、学校全体で体力・運動能力向上のための目標設定を行っている学校の割合や、運動やスポーツ、児童生徒の体力について、学校が家庭と連携している割合が全国平均に比べて高い。

<課題>

- 体育・保健体育の授業以外での運動やスポーツの実施時間が減少している。
- 肥満傾向の児童・生徒の出現率が上昇している。

7 今回の結果を踏まえた今後の対策

コロナ禍により、全国・本県ともに、体育・保健体育の授業以外の運動やスポーツの実施時間は減少し、体力合計点が低下、肥満傾向の児童・生徒の出現率が上昇した。

一方で、コロナ禍においても、県内全ての小中学校において、「体力向上プラン」に基づく取組を実施してきたことにより、学校全体の体力・運動能力向上に関する目標設定している学校の割合や、運動やスポーツ、児童生徒の体力について、学校と家庭が連携している割合が、小中学校いずれも全国平均を上回った。こうしたことから、小中学校の男女いずれも、体力合計点については、全国平均との比較結果は改善されている。

今回の結果から得られた成果・課題を踏まえ、体力向上にかかる情報提供をより一層行うなど研修等を充実させるとともに、以下の対策を重点的に行う。

- (1) 県内全ての小中学校で取り組んでいる「体力向上プラン」に基づく取組を継続しつつ、体育授業及び体育授業以外での運動意欲を高め、休み時間や家庭での身体活動量を増やす。
※年度末には、体力向上につながる授業実践例等、活用できる資料を県内全ての小学校、中学校に配布予定。
- (2) 家庭や関係機関（学校医や学校給食センター等）との連携を強化し、児童生徒の健康的な生活習慣を目指した取組を推進する。
→ 肥満傾向の児童生徒等の対策として、平成29年11月に策定された「小・中学校における生活習慣病対策基本方針」に基づき、学校・家庭・関係機関（群馬県医師会等）とも連携しながら、健康的な生活習慣の確立を目指した取組を促進する。